

＜ 合歡のうた ＞

竜の背で ころげてはねて こづち振る

吾子の聲光り 夢 天を突く 合歡

あけまして おめでとうございます。

令和六年、新たなる年に期待がふくらみます。グローバル化、IT革命の技術革新にともない社会の仕組みそのものが、めまぐるしく変化しつつあるようです。これからの時代を担う子ども達が自己実現するには「意欲」と「好奇心」が不可欠です。AIが活躍の場を広げている昨今、いかなAIでも「意欲」と「好奇心」だけは持ち合わすことが出来ないのでは…。脳科学者の川島隆太先生は「子どもの意欲を伸ばすには、0才～6才までの親子のコミュニケーションが特に大事」とのべられています。何故コミュニケーションが意欲を伸ばすことにつながるのでしょうか？そのヒントが脳の深部に存在する「辺縁系」です。感情、情動を司り、専門家間では「こころの脳」と呼ばれ、この部分を育むことが意欲を伸ばすベースとなっているのです。親子間のコミュニケーション、共通体験が子どもの「心の脳」を育て時に「緊急避難基地」をつくることにもつながるそうです。では、どんな取組みを…？川島先生が勧めるのは読み聞かせです。東北大が中心となった調査結果です。

- ・ 語い数の増加、聞く力の顕著な成長
- ・ 豊かな発想、想像力
- ・ 心の安定（ストレス解消）
- ・ 冷静な思考、判断、対応力
- ・ 親子関係が密になる（愛着形成）

そして、更に浮き彫りになった事は「親が変わる」という手応えだったそうです。「読み聞かせっていいね。続けていたらどんどん子どもが可愛くなってきた。」とある父親の弁。園でも読み聞かせをするのですが、お父さん、お母さんとの時間は格別です。

一日 10分～15分？親子での読み聞かせ

リラックスタイムはいかがでしょう!!

「心の脳」からのいざないです。

